



NAQOYQATSI

日常と化した戦争



言葉を超えて、 五感で“体験”する映像と音楽

「ナコイカツィ」は、言葉を用いず、映像と音楽の力だけで人の心の奥深くへと入り込み、魂を震わせる壮大な映像叙事詩だ。そこに台詞はなく、登場人物もない。あるのは、スクリーンから溢れ出す息を呑むほどショッキングで美しい映像と、心を捉えて離さない甘美な音楽のみ。冒頭に映し出されるデジタル処理をされたブリューゲルの名画「パベルの塔」、1と0で作られたブラックホール、宇宙を浮遊する赤ん坊、クローン羊、発射されるロケット、戦地へ赴く兵士、拳銃乱射事件を伝えるニュース、アメリカ合衆国大統領ジョージ・ブッシュの顔―。

日常をとりまく全てが“デジタル”テクノロジーにより急速にネットワーク化されていく21世紀において、「ナコイカツィ」―LIFE AS WAR―は、テクノロジーの力に私たちの世界が飲み込まれていき、戦争でさえ日常と化していく現実を浮き彫りにする。9・11米同時多発テロとイラク戦争を体験してしまった私たちは、この映画の映像ひとつひとつに込められている強烈なメッセージに、深く心を動かされるに違いない。

人間とコンピューター、生命とテクノロジー、知識と支配、そして、戦争と未来。

スティーヴン・ソダーバーグ監督製作総指揮、
フィリップ・グラス作曲、ヨーヨー・マのチェロ演奏。
世界の一流アーティストが奏でる
世紀のコラボレーション！



監督は、フランシス・F・コッポラ、ジョージ・ルーカスなどアメリカ映画界を先導する巨人たちが、こぞって製作協力の手を差し伸べてきた伝説の映画作家、ゴッドフリー・レジオ。彼の独自のスタイルは、MTVのミュージック・クリップやCFの世界にも絶大な影響を与え続けており、一大センセーションを巻き起こした「コヤニスカッツィ」は世界中のアーティストのバイブルとなっている。音楽を担当するのは、「コヤニスカッツィ」も手がけ、「クンドゥン」や「めぐりあう時間たち」でアカデミー賞候補となったミナル・ミュージックの巨匠フィリップ・グラス。本作では、それまでの作風を覆すような激しい情感をこめたスコアを提供している。



また、熱狂的なファンを持つ世界的チェリストのヨーヨー・マが、聴く者の胸を張り裂くような切なくて美しい音色を奏でる。今回、製作総指揮を務めるのは、「トラフィック」でアカデミー賞を受賞した映像派監督スティーヴン・ソダーバーグ。さらに、“戦争”と“テクノロジー”という本作のテーマをデジタル映像で描くように勧めたのは、ほかならぬジョージ・ルーカスだったという。「コヤニスカッツィ」から20年、ゴッドフリー・レジオとフィリップ・グラスの、世紀を超えて世界を挑発し誘惑し続けるコラボレーションが、新たな時代を迎える。



「ナコイカツィ」で、遂に映像と音楽による宗教的詩編がうまれた。
生成と消滅を繰り返すこの宇宙がかくも荒々しい暴力に満たされているとは。

磯崎新 | 建築家 |

鋭く切りとられた映像と雄弁な音楽のみによって
ひたひたとうたわれていく無言歌は、深く、恐い。

黒田恭一 | 音楽評論家 |

フィリップ・グラスの音楽を聴く方法の中で、
この長編の映像を観るというより浴びる事は至上のもの。
堕ちゆく地球と人間が哀しく、それでも、極美に感じられる。

大伴良則 | 音楽評論家 |

ナコイカツィ

www.naqoyqatsi.jp

監督＝ゴッドフリー・レジオ「コヤニスカッツィ」「ボワカツィ」 音楽＝フィリップ・グラス「めぐりあう時間たち」
チェロ演奏＝ヨーヨー・マ「グリーン・デスティニー」 製作総指揮＝スティーヴン・ソダーバーグ「オーシャンズ11」
「フル・フロンタル」 2002年/アメリカ/89分/ヴィスタサイズ/ドルビーSRD
原題＝NAQOYQATSI: LIFE AS WAR サウンドトラック＝ソニー・ミュージック
配給＝東芝エンタテインメント 配給 ©2002 MIRAMAX FILM CORP. ALL RIGHTS RESERVED.

キアート＝横尾忠則

2004年2月、ロードショー！

特別鑑賞券発売中！
¥1,500 [税込・一般¥1,800の処]

劇場窓口にてお買い求めの方に限り、ゴッドフリー・レジオ監督インタビュー、
フィリップ・グラスのインタビュー、ヨーヨー・マのレコーディング風景など特別
映像を収録したスペシャルビデオ「ナコイカツィ」への誘いをプレゼント！

ユーロスペース

渋谷駅南口下車2分 JTB前さくら通り上る
TEL:03-3461-0211 | www.eurospace.co.jp |

陽春、大阪・梅田ガーデンシネマにて公開